

# 「ゼロカーボンチャレンジシート」キャンペーン 令和4年度 取りまとめ結果

「ゼロカーボンチャレンジシート」に取り組んだ方を対象に実施したキャンペーンは、令和4年7～10月の実施期間中に、**356世帯**からご応募いただきました。皆さんの取組内容を取りまとめましたので公表します。いただいた感想などは、今後の施策の参考とさせていただきます。

## 1 CO<sub>2</sub>削減量

応募全世帯の合計 **11,414** キログラム (平均チャレンジ期間 11.4日)

1日当たりの平均値 約 **1,000** キログラム

1年間同様の取組を継続した場合 約 **360** トンのCO<sub>2</sub>削減 (1世帯あたり1トン削減)

今回と同様の取組を鹿児島市の全世帯(約28万3千世帯)が1年間実施すると、

約 **28万トン**のCO<sub>2</sub>を削減することができます。

この数字は、鹿児島市の家庭部門からのCO<sub>2</sub>排出量(2019年度 約62万トン)の

約 **45%**に相当します。皆さんの取組の積み重ねが大きな効果につながる事が分かります。

※上記CO<sub>2</sub>削減量については、既に取り組んでいる項目も「チャレンジ項目」として選択可能としたことや、本事業で参考にしたCO<sub>2</sub>削減量と本市が毎年公表するCO<sub>2</sub>排出量の計算方法が異なるため、単純な比較はできませんが、一例として記載しております。

## 2 チャレンジ項目

(1) 「挑戦する項目」として選ばれたものベスト3

①	自宅でクールビズ・ウォームビズ	68.3%
②	休暇を近場で過ごす	67.7%
③	バランスの取れた食事に	63.5%

取り組みやすいものにチャレンジした方が多かったと考えられます。

(2) 「挑戦する項目」として選ばれたものワースト3

①	マイカーを電気自動車に	3.7%
②	テレワークの実施	4.8%
③	自宅に太陽光パネルを設置	11.0%

新たな設備が必要なものはあまり取り組まれなかったと考えられます。

(次のページに続く)

### **3 主な感想**

- ・ ひとり一人ができる行動を急いでおこななければならない。
- ・ 無理なく取り組めることから実践していくと、楽にできて家計や健康にもプラスになった。
- ・ 身近なことが脱炭素に繋がることがわかり、継続していこうと思った。
- ・ 環境について家族で考える良い機会になった。
- ・ 取り組みが数量として出てくるのはとてもわかりやすい。身の回りの人に波及させることが大事と感じた。
- ・ コロナでほとんど自宅にいたので、自然に脱炭素型のライフスタイルになった。
- ・ 挑戦する人数や期間を増やせばもっと削減できると思う。

### **4 「挑戦する項目」ができなかった理由**

- ・ 好き嫌いが原因で食品ロスが出てしまった。
- ・ 毎日意識しすぎるのはきつかった。
- ・ チャレンジもよいがストレスになることもあった。
- ・ バスが減便され、利便性がないので、自家用車を使うしか手段がない。また、年齢的にも歩ける距離が限られているので、車を使ってしまう。
- ・ 店舗にもよるが、欲しい野菜が、鹿児島県産以外のものしか売っていない。

### **5 「挑戦する項目」として選ばなかった理由**

- ・ マンションに住んでいるため、再エネ電力の契約や太陽光パネルの設置、電気自動車の購入ができない。
- ・ 太陽光パネルなど、金額的に元が取れるのか疑問に思い、購入にいたっていない。
- ・ 設備購入や食事に関する事など、家族の協力がなければ実施できないものがあった。
- ・ 公共交通機関より車の方が便利でコロナ感染リスクが少ない。
- ・ よく行く移動先は、公共交通機関では行きにくい。
- ・ 価格が割高なイメージがあるものは今回挑戦しなかったが、減らせるCO<sub>2</sub>の量が大きいものばかりなので、これを機に詳しく調べて取り組む方向で検討したい。

### **6 まとめ**

今回ご応募いただいたみなさんの取組によるCO<sub>2</sub>削減量は11,414キログラムで、年間に換算すると約360トンと非常に大きな効果が出ることが分かりましたので、この結果をSNS等で市民の皆さんへお知らせしていきます。また、取組項目への率直なご意見を多数いただきましたので、次年度以降の取組の参考とさせていただきます。